

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度 技術情報第12号（キュウリの退緑黄化病及び黄化えそ病）
について（送付）

キュウリの退緑黄化病及び黄化えそ病について下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和5年度 技術情報第12号

昨年度はキュウリの退緑黄化病及び黄化えそ病の発生が多くみられ、近年増加傾向にあるため、下記4を参考に、育苗期から本ば生育初期の防除対策を徹底して下さい。

- 1 対象病害虫** キュウリ退緑黄化病（CCYV）、キュウリ黄化えそ病（MYSV）
- 2 対象作物** キュウリ
- 3 発生状況等**
 - 令和4年10月～令和5年3月に県内4地点、12ほ場で調査を行った。
 - 退緑黄化病の発生ほ場率は11月以降急激に高まり、平年より高く推移した（図1）。
 - 黄化えそ病の発生ほ場率は1月に25%（平年9%）とやや高かった（図3）。
 - 退緑黄化病及び黄化えそ病の発生ほ場率はいずれも高い傾向である（図2、4）

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

退緑黄化病の病原ウイルスはタバココナジラミが媒介し、黄化えそ病の病原ウイルスはミナミキイロアザミウマが媒介する。感染時期が早いほど減収割合が高くなるため、育苗期から本ば生育初期は本病の感染防止には重要な時期であることから、以下の対策を行う。

- ハウス周辺、内部の雑草は媒介虫の生息・増殖場所になるので、定植10日前までに除草する。
- ハウス内への侵入を防ぐため、開口部（サイド等）には必ず防虫ネットを設置する。なお、ハウスに寒冷紗を張る等、昇温抑制対策を可能な限り行う。
- 防虫ネットの設置のみでは侵入を防ぐことはできないので、定植時には必ず粒剤を施用する。
- 定植時には、ハウス内に罹病苗や媒介虫を持ち込まないよう注意する。
- 発病株を認めたら速やかに除去し、ハウス外に持ち出して埋没処分するか、ビニール袋等に入れて処分する。

- (6) タバココナジラミは黄色粘着トラップを、ミナミキイロアザミウマは青色粘着トラップを設置し、早期発見・初期防除に努める。
- (7) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

5 調査結果

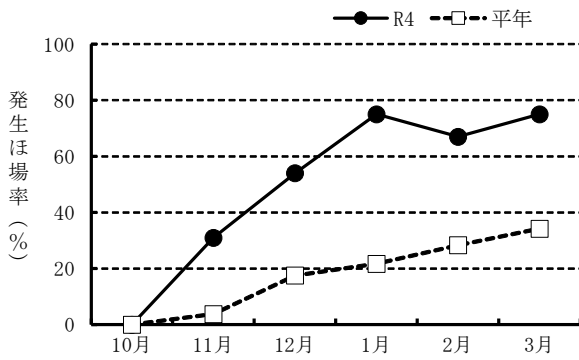


図1 退緑黄化病の発生ほ場率

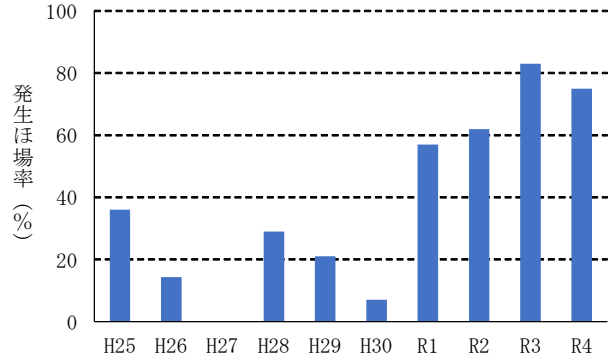


図2 過去10年間の退緑黄化病の発生ほ場率
注) 値は当該年度で最も高かった月の発生ほ場率

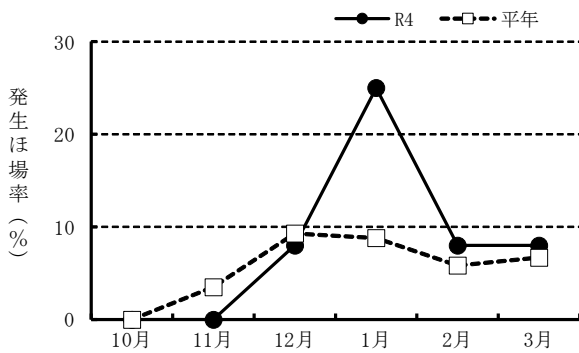


図3 黄化えそ病の発生ほ場率

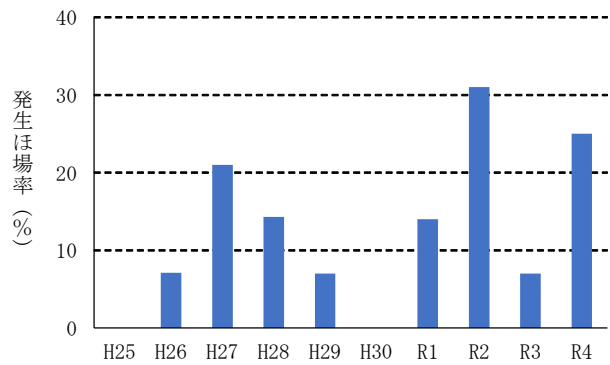


図4 過去10年間の黄化えそ病の発生ほ場率
注) 値は当該年度で最も高かった月の発生ほ場率